

## 天然採苗よりみたイタヤガイ稚貝の 付着特性<sup>\*1</sup> (抄録)

森脇晋平・松山康明<sup>\*2</sup>

イタヤガイ天然採苗試験において、採苗をより安定的にすすめることを目的として、採苗器の設置・回収をくりかえす調査を実施し、付着個体数及びその殻長組成から浮遊幼生の出現状況、付着過程、採苗器の設置適期について検討した。採苗器は塩化ビニール製波板(30 cm×60 cm)を玉ねぎ袋に収容し採苗施設とした。この採苗器を1980年10月25日から1カ月おきに1981年3月まで投入し、その際、過去に投入した浸漬期間の異なる採苗器を回収した。回収した採苗器に付着したイタヤガイは、ハケですべて洗い落とし、約5%のホルマリン液で固定した後、実体顕微鏡下で他の付着物と分離し、マイクロメータ及びキャリパーで殻長を測定した。その結果、付着稚貝は12月から6月と長期に渡っていることから浮遊幼生は長期間出現していると推定されるが、その盛期は1月下旬から2月下旬と推察された。これらは付着盛期に集中的に付着したものであり、採苗器はその直前、もしくはそれより1カ月程度前に設置することが効率良い採苗をする上で望ましいと考えられた。

---

\*1 水産増殖 第30巻 第1号(1982)に発表した。

\*2 現在 浜田水産事務所